

正誤表

『臨床検査法提要』改訂第36版第1刷（令和7年9月25日発行）に誤りがございました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

2026年4月6日

金原出版株式会社

記

頁	訂正箇所	誤	正
1942	VIII. 尿検査 有機成分の 12～14行目	尿素窒素 <u>8～20 mg/dL</u> 尿酸 <u>男：3.7～7.8 mg/dL</u> <u>女：2.6～5.5 mg/dL</u>	尿素 14～28 g/日 (尿素窒素) (6.5～13) 尿酸 0.4～0.8 g/日

以上

正誤表

『臨床検査法提要』改訂第36版第1刷（令和7年9月25日発行）に誤りがございました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

2026年1月29日

金原出版株式会社

記

頁	訂正箇所	誤	正
85	17～19行目	溶液内に生じた粒子に <u>赤外線高性能LEDによる840nm付近のレーザー光を照射すると、粒子の直径よりも光の波長が大きいため Rayleigh（レイリー）散乱と呼ばれる散乱が起こる。散乱光の強度は粒子の中心から等方的であり、放射光散乱強度（I）は…</u>	溶液内に生じた粒子に 840 nm 付近の赤外線高性能LED光を照射すると、抗原抗体複合体の粒子径が入射光の波長より十分小さい場合には Rayleigh（レイリー）散乱が起こる。さらに抗原抗体反応が進行して凝集塊の粒子径が波長と同程度、もしくはそれ以上となると、散乱は Mie（ミー）散乱の寄与が増大し、前方散乱光が相対的に増加する。一般に、散乱光強度の角度分布は粒子径に依存し、粒子径が十分小さい領域では散乱はほぼ等方的に観測され、散乱強度（I）は…
297	表 4-24 顆粒球系(M) 骨髓芽球の Wintrobe に よる平均	0.9 (0.1～ <u>0.7</u>)	0.9 (0.1～ 1.7)

以上